



2026 – 2027

要 覧

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構

統計数理研究所

The Institute of Statistical Mathematics

国立大学法人 総合研究大学院大学 先端学術院

統計科学コース

Statistical Science Program, Graduate Institute
for Advanced Studies, SOKENDAI

■ 研究組織	03	■ 共同利用	09
■ 研究紹介	05	■ 大学院教育	11
■ 研究所の事業	07	■ 研究所が開発した主なプログラム	13

はじめに

統計数理研究所長の山下智志でございます。所長を拝命してから一年が経過いたしました。

統数研は、昭和19(1944)年の創設以来、80年にわたり統計数理科学の発展に寄与してまいりました。その歴史は、制度的な変遷を経ながらも、「現場・現実・現象に向き合い、その背後にある構造を抽出する」という一貫した学問的姿勢によって貫かれております。

近年、AI・機械学習の急速な進展により、データを用いた意思決定の重要性はかつてないほど高まっています。しかしながら、その一方で、データから何を読み取り、どのように解釈し、どのような判断へと結びつけるかという問いは、ますます本質的なものとなっています。統計数理科学の役割は、単なる計算技術の提供にとどまるものではなく、不確実性のもとで合理的な認識と意思決定をいかに構築するかという、知の枠組みそのものを提示する点にあると考えます。

所長としての一年を通じて、統数研が担うべき使命は、この「方法としての統計」を深化させることに加え、それを担う人材を育成し、社会へと送り出していくことにありと強く認識するに至りました。高度な計算技術が広く普及する時代においてこそ、背後にある前提や限界を理解し、現実 に即して適切に用いることのできる人材の重要性は一層高まっています。

統数研は、大学共同利用機関として、共同研究や研究集会を通じた知の共有のみならず、次世代の研究者および高度専門人材の育成においても中核的な役割を果たしてきました。今後は、この機能をさらに強化し、統計数理科学の素養を備えた人材が、多様な分野においてその能力を発揮できる環境を整えていくことが不可欠であると考えております。

こうした認識のもと、就任時に掲げた三つの目標についても、その意義をより明確にしながら取り組みを進めてまいります。

第一に、財政的基盤の安定化は、単に研究活動を維持するためだけでなく、長期的視野に立った人材育成と研究環境の整備を可能とするための前提条件であります。

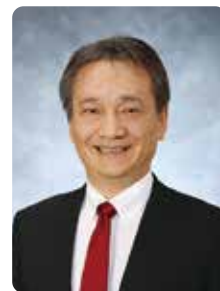
第二に、業務運営の合理化は、研究者が本来向き合うべき「現実の複雑さ」に集中できる環境を整えるために不可欠です。制度や運営の簡素化は、単なる効率化ではなく、研究の質を高めるための基盤であると位置付けております。

第三に、統数研のプレゼンス向上は、研究成果の発信にとどまらず、統計数理科学という学問の価値を社会と共有し、それを担う人材の裾野を広げることにもつながる重要な課題です。

統計数理科学は、不確実な世界において秩序を見出し、意思決定の根拠を与える学問であり、その意義は今後ますます大きくなっていくと考えられます。その発展のためには、理論と応用の双方を架橋しうる人材の継続的な育成が不可欠です。

所長としての歩みはまだ始まったばかりではありますが、この一年で得られた認識を基盤として、統数研の研究と人材育成の双方をより一層充実させてまいり所存です。

今後とも、統数研の活動に対する皆様のご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

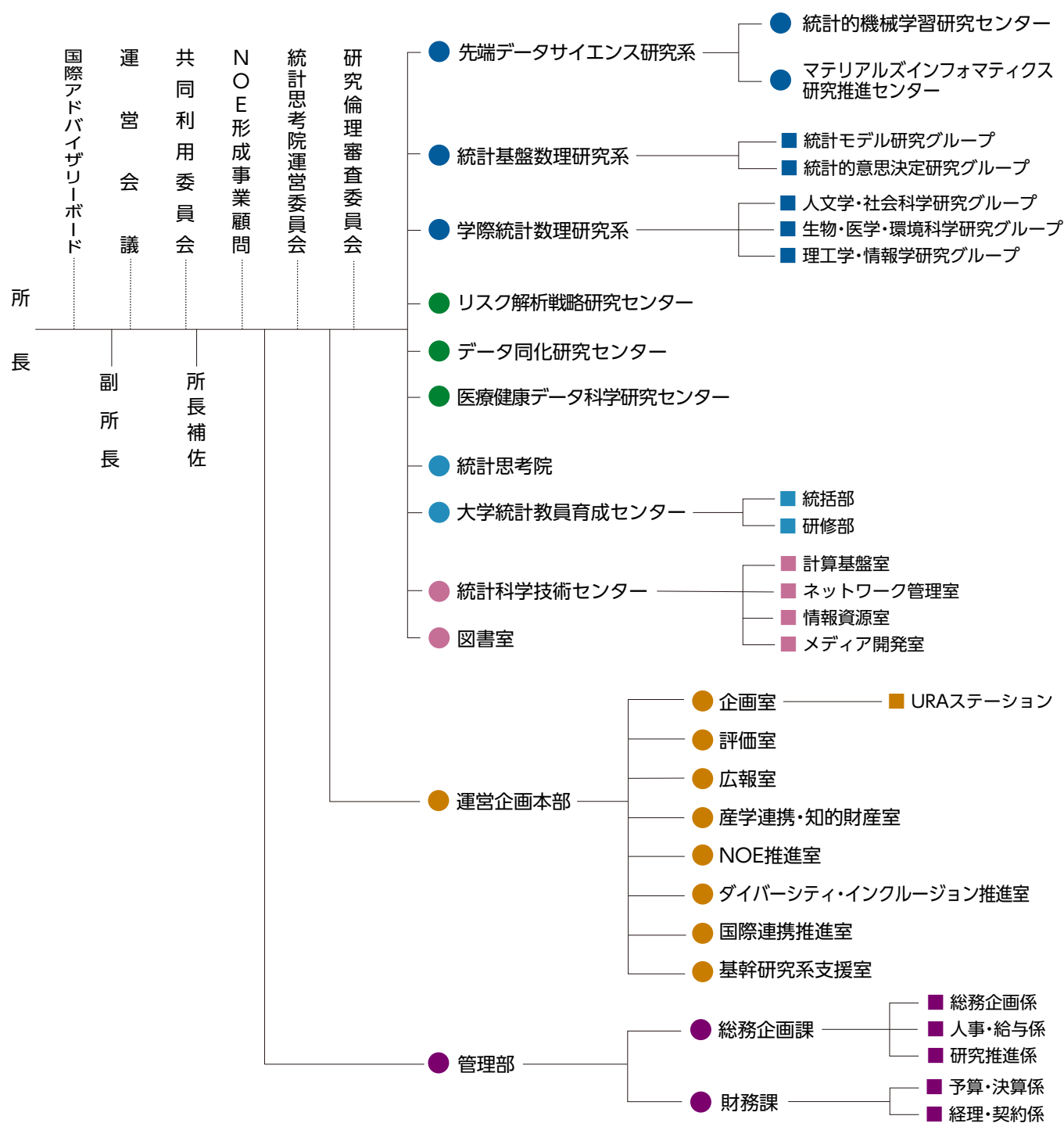


統計数理研究所長
山下 智志

■ 決算・建物	14
■ 組織	15
■ 沿革	22



組織図



2026年4月1日現在

● 先端データサイエンス研究系

先端学術分野での分野横断的な研究を推進する高等研究センターと、特定領域の共同研究拠点となる高等研究センターを設置し、統計数理科学の理論・方法・実践の相乗的發展を生み出す世界トップレベルの研究拠点を形成します。統計数理科学と諸科学の研究者らが分野・組織・国境の垣根を超えて学融合、新分野開拓、オープンイノベーションを推進します。

● 統計的機械学習研究センター（分野横断型高等研究センター）

統計的機械学習の基盤研究を推進します。特に、人工知能のコア技術としての深層学習や次世代の基盤モデルなどの研究、機械学習技術の基盤としての数理最適化の理論・方法の研究を推進します。さらに、国立天文台と連携しての天文データ科学をはじめとして、先端的統計的機械学習の特色が明確化できる諸科学・産業分野との協働を推進していきます。

● マテリアルズインフォマティクス研究推進センター（特定領域高等研究センター）

統計的機械学習の先進技術と材料科学分野の産学の研究者、独自の材料データベースが合流する世界的にもユニークな研究拠点を形成し、マテリアルズインフォマティクスの新技術創出と環境・エネルギー問題の解決や社会の持続的發展に資する新材料創成に取り組みます。

● 統計基盤数理研究系

統計モデルの開発と利用の研究や、統計モデルに基づいた統計的推論および基礎となる最適化に関する理論と応用の研究を推進します。また、それらの融合による発展や新分野開拓を志向しながら、統計数理科学の数理基盤を構築し、統計数理科学全体の発展に寄与することを目指します。

■ 統計モデル研究グループ

様々なタイプのデータに対応した多様な統計モデルが提案されています。特に近年では、データの巨大化と複雑化を活かして詳細な知見を引き出すニーズが高まっているため、柔軟性と汎用性により富んだ統計モデルの開発、さらにそれらを利用するための計算手法の確立が求められています。本研究グループでは、そのような統計モデルの開発と利用に関する研究を推進します。

■ 統計的意思決定研究グループ

データから合理的な意思決定を行うためには、適切な統計モデルに基づいて、推定・検定・モデル選択に代表される妥当な統計的推論を行うことが重要です。また、統計的推論を行うには、推論に伴う損失を最小にする最適化が重要となります。本研究グループでは、そのような統計的推論と最適化に関する理論と応用の研究を推進します。

● 学際統計数理研究系

人文学・社会科学、生物・医学・環境科学、理工学・情報学の三つの学術領域における統計数理の理論と応用の研究を推進します。特定の学術領域から発展した方法論を、他の分野へ適用することで学際的な研究を推進し、新しい知見の創出と実問題の解決への貢献を目指します。

■ 人文学・社会科学研究グループ

経済・社会調査や言語・心理など多様な分野で、統計数理手法の開発に挑戦します。異質性を持つデータの取得やモデル化、意思決定の数理分析を通じて、人文・社会現象の未知の構造を解明し、理解と予測精度の向上を目指します。

■ 生物・医学・環境科学研究グループ

統計数理を基盤として、生物学・医学・環境科学の複雑な課題に取り組みます。生物多様性の保全や疾患機序の解明などを旨とし、確率論や数理モデリングを駆使して先端的な研究を進め、理論の構築と実践的な応用を追求します。

■ 理工学・情報学研究グループ

統計数理の先進的手法を活用し、理学・工学・情報学への応用と方法論の研究に取り組みます。データ同化や機械学習、差分プライバシーなどの課題に統計数理で挑み、理論を工学的問題解決に活かして技術革新を目指します。

● リスク解析戦略研究センター

現代社会が直面するリスクに科学的に対応するためのプロジェクト研究を推進しています。プロジェクトでは、地震・環境・資源管理に関連したデータの解析、時空間データ解析のための理論・応用の研究、リスク解析のための基盤・計算数理手法の発展、データの収集やリンケージに関わる活動などを行っています。また、リスク解析に関する研究ネットワーク組織を運営することにより、分野横断型のリスク研究コミュニケーションの円滑化を担い、社会の安心と安全に貢献することを目指します。

● データ同化研究センター

数値シミュレーションと観測データを統合する基盤技術であるデータ同化手法の研究を実施します。逐次ベイズフィルタの理論及び方法の研究をはじめ、エミュレータの開発、時間・空間領域のモデリングの方法の研究、超大規模並列計算機を利用したデータ同化のアルゴリズムの開発、そしてデータ同化手法の様々な分野への応用研究を行い、未来予測が可能なシミュレーションモデルの構築や、効率的な観測システムデザインの提案、実システムのオンライン制御の実現に貢献します。

● 医療健康データ科学研究センター

医療・創薬・ヘルスケア・公衆衛生などの医療健康分野における統計数理・データサイエンス研究を推進します。医療健康データサイエンスの基盤となる基礎数理・計算機科学から、医学諸領域における統計・機械学習の方法論開発とその実践研究のための基盤作りを目指します。併せて、医療健康データサイエンスを全国規模で推進するためのネットワーク構築および高度専門統計教育を推進します。

人材育成組織

● 統計思考院

人材育成・統計思考力育成事業の各プログラムの企画・実施の母体となる組織です。データ解析やビッグデータのモデリング、研究コーディネーションなど大規模データ時代に求められる統計思考ができる人材（データサイエンティスト、研究コーディネータ等）を共同研究や教育プログラムを通して育成します。

● 大学統計教員育成センター

データサイエンス・AIの基盤となる統計学の教員不足は、深刻です。このため、全国の大学等と「統計エキスパート人材育成コンソーシアム」を形成し、統計学教員を始めとする高度な総計人材の育成を推進しています。育成された統計学教員が全国の大学等で更に統計エキスパートを育成する、人材育成の好循環システムの構築を目指します。

研究支援組織

● 統計科学技術センター

統計科学の計算基盤および情報に関する技術的業務を担うことにより、統計数理研究所および利用者の研究活動を支援し、統計科学の発展に貢献します。

- 計算基盤室 スーパーコンピュータ等の計算機と各種ソフトウェアの管理・運用に関する業務。
- ネットワーク管理室 所内計算機ネットワークの管理・運用とセキュリティに関する業務。
- 情報資源室 研究情報システム・図書関連資源の整備・運用、研究成果の公開・教育に関する業務。
- メディア開発室 研究成果の収集・管理、学術刊行物および広報刊行物の編集・発行に関する業務。

● URA ステーション

国内外の大学や研究機関との共同研究促進、研究交流促進のための企画や実務を担当しています。研究者・事務／技術職員と連携し、研究戦略の企画立案、産学連携、プレ／ポストアワード、研究IR、広報・アウトリーチ活動等に取り組み、研究所のコーディネーション機能や研究支援機能の強化、大学共同利用機関としての機能強化実現に取り組みます。

社会経済シナリオに基づく生産額の空間ダウンスケーリング

■ Shared Socioeconomic Pathways (SSPs)

気候変動下で持続可能な都市開発の実現は喫緊の課題である。SSPsは、持続可能 (SSP1)、中庸 (SSP2)、地域分断 (SSP3)、不平等 (SSP4)、化石燃料主導 (SSP5) といった将来の社会経済シナリオであり、各シナリオに対応する国内人口および国内総生産の将来推計が公開されている。これらは排出量、災害リスク、土地利用の推計に広く用いられており、人口については都市政策への応用を見据えて1kmメッシュへのダウンスケーリングも試みられてきた。一方、生産額は空間的に詳細な過去データの不足から同様の研究が限られている。そこで本研究では、生産額の1kmメッシュへのダウンスケーリングを試みる。

■ ダウンスケール手法

建物レベルでは経済生産額の過去データが存在しないため、本研究では延床面積を基に、次の手順で1kmメッシュ別の生産額を推計した：(1) 都道府県別の業務延床面積の将来推計、(2) 1kmメッシュ毎の業務延床面積の将来推計、(3) 1kmメッシュ別の生産額の推計。

手順(1)では、(1a) 現存建物の残存量(延床面積)を生存関

数により将来推計した。また、SSP別人口・土地利用シナリオおよび過去の建物着工データを考慮したセミパラメトリックモデルにより、(1b) 新規建物の延床面積も将来推計した。これら(1a)と(1b)を合計し、2100年までの延床面積を都道府県別に推計した。図1に東京都の結果を示すが、経済が停滞するSSP3では建て替えが遅れ、経済発展するSSP5では速やかに進むなど、シナリオ仮定と整合的な傾向が確認される。以降、手順(2)では、SSP毎の都市形成過程を反映したランクサイズルールに基づき新築建物の延床面積をダウンスケールし、その結果を元に1kmメッシュ毎の生産額を推計した。

■ 生産額の推計結果

首都圏における2100年の推計結果を図2に示す。この結果から、現状維持シナリオであるSSP2と比較して、SSP1では鉄道駅周辺へのコンパクトな成長、SSP3では全域的な衰退、SSP5では都市域の無秩序な拡大が反映されていることが分かる。これらの傾向は、特に首都圏北部(図2の白円内)で顕著である。今後は、推計された生産額データを公開するとともに、CO₂排出量や災害リスクの推計への応用を検討したい。

村上 大輔

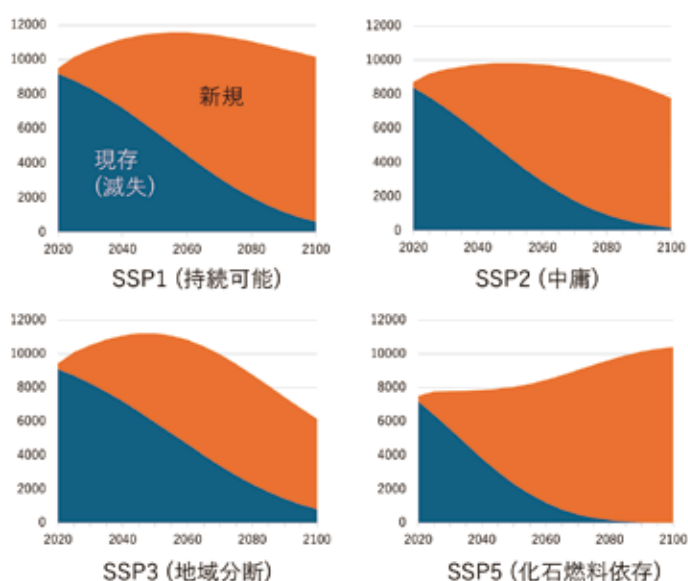


図1：東京都におけるシナリオ別の延床面積の将来推計結果

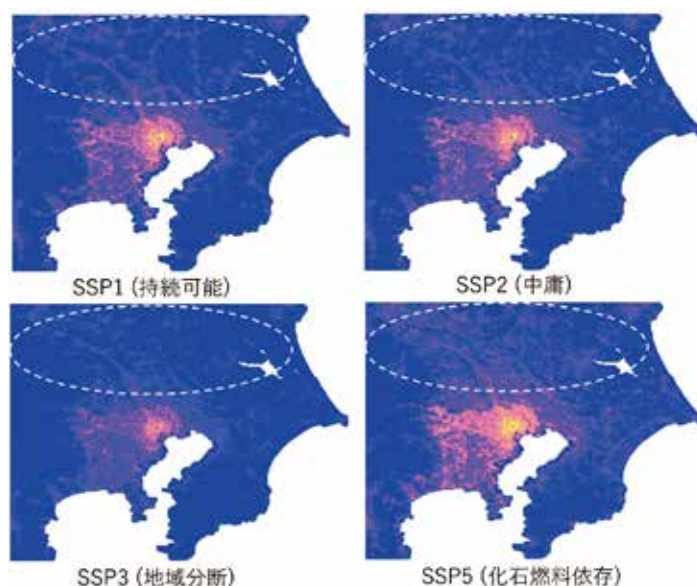


図2：1kmメッシュ別・シナリオ別の生産額の推計結果（2100年・首都圏）

医療健康データサイエンスの推進を目指して

■医療健康データサイエンスとセンターミッション

近年、様々な分野でデータサイエンスに対する期待が高まっていますが、医学・健康科学分野もその例外ではありません。最近では、分子/医療ビッグデータを生成AIなどの先端技術を用いて解析することで、生体・疾患機構の解明、創薬を含めた医療技術開発、さらには精密医療(precision medicine)の実現が大きく加速されると期待する方も多いことでしょう。その一方で、周到的な研究デザインと統計的モデリングと推測により、質の高いスモールデータから医療技術の確かなエビデンスを獲得するという重要な役割も忘れてはなりません。医療・健康分野におけるデータサイエンス(医療健康データサイエンス)への期待は今後ますます大きくなることは確実であり、この分野の教育と研究の充実、強化が今後一層求められることになります。

医療健康データ科学研究センターは、統計数理研究所が長年蓄積してきたデータサイエンスの研究・人材育成の基盤と国内外の研究者ネットワークを母体として2018年4月に設立されました。そのミッションは、我が国の医療健康データサイエンスの教育・研究の底上げにつながる基盤形成事業を展開・推進することであり、既に多くの教育・研究活動の蓄積があります。

■教育・研究活動

教育面では、医療健康データサイエンスの基盤をなす統計数理、生物統計学、理論疫学、機械学習の方法論・方法に関する系統的教育コース(webセミナー含む)、特定研究分野での

短期集中研修、統計実務者を対象としたコンサルティング、公開講座、研究者コミュニティの共有財産となるe-learning教材の開発などの多様な教育事業を推進しています。

研究面では、基盤数理・計算機技術から、医療技術・ヘルスケア開発、公衆衛生・社会医学研究などを想定した統計的方法論の研究、さらに、先端的な機械学習・AIアルゴリズムを用いたビッグデータ解析など、多彩な研究プロジェクトを推進しています。

■医療健康データ科学研究ネットワーク

以上の多くの事業は、センター設立時に立ち上げられた「医療健康データ科学研究ネットワーク」の活動と連動しております。このネットワークには、関連学会、全国の大学・研究機関、病院、企業から、107団体(2026年2月現在)のご参加をいただいております。非常にユニークなネットワークとなっています。医療健康データサイエンスの真の発展は、統計数理・情報学分野と医学・健康科学分野の研究者が有機的に連携・協働する形を定着できるかにかかっています。今後センターは両分野の橋渡しの一翼を担うことができるよう、全力で努めて参ります。

松井 茂之



図1: e-learning ウェブサイト



図2: 短期集中研修「医療健康データ科学のための機械学習コース」(2025年8月)

NOE (Network Of Excellence) 形成事業

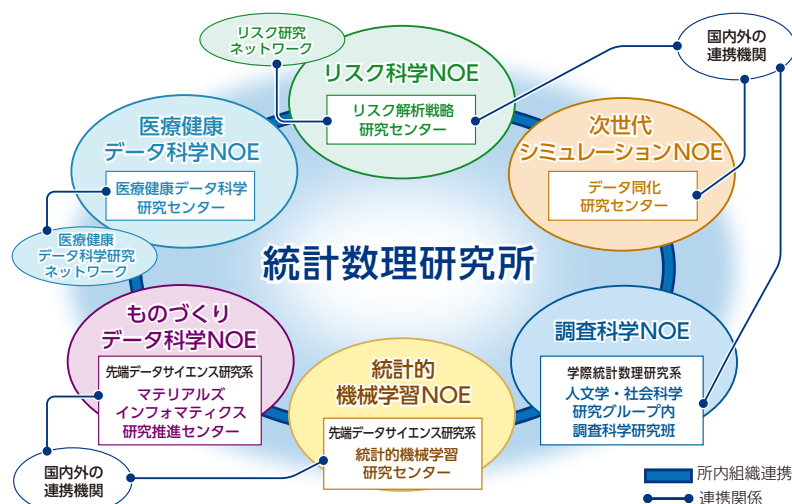
<https://www.ism.ac.jp/noe/>



「NOE (Network Of Excellence)」という概念のもと、人材や設備環境などの研究資源をネットワークでつなぎ、分野横断型の研究推進や新たな学術分野の創成を目指す取り組みとして、2005年にリスク科学分野での学術ネットワーク形成事業を立ち上げました。その後、2010年には「統計数理NOE」の構築をミッションに掲げた「NOE 形成事業」を本格的に始動しました。以来、大学共同利用機関である統計数理研究所は、大学や学術コミュニティからの要望を反映しながらネットワークのハブ拠点としての役割を果たし、異分野融合や新分野創出のシーズとなる共同研究の育成、さらには“ネットワーク型共同研究”という新しいスタイルの共創型研究の構築を促進してきました。

時代やコミュニティのニーズに応じて体制の見直しを図りながら、現在では、リスク科学、次世代シミュレーション、調査科学、統計的機械学習、ものづくりデータ科学、そして医療健康データ科学の6分野でNOEを形成し、研究および教育活動を推進しています。学界や産業界など幅広い外部機関との連携を通じて、個別課題の解

決にとどまらず、知識社会における新しい科学的方法論(第4の科学:データサイエンス)の確立を目指して本事業を展開しています。



NOE形成事業概念図

統計思考力育成事業

<https://www.ism.ac.jp/shikoin/>



統計思考院は、ビッグデータ時代に対応したデータサイエンティストの育成を目的として、平成23年度に設立されました。統計思考力の育成を中心に据え、幅広い教育・人材育成機能を展開しています。

「共同研究スタートアップ」は、外部から寄せられる統計相談に専門家が対応し、研究課題解決を支援する取り組みです。令和7年度は11件の申し込みがあり、共同利用の活性化に貢献しています。「公募型人材育成事業」では、人材育成に関わる研究集会や、若手研究者が統計研に滞在し教員と集中的に共同研究を行う形の企画をサポートしています。

令和5年度には総合研究大学院大学の「データサイエンティスト型研究者人材養成システム事業」がスタートし、統計思考院はその実施機関として協力しています。同大学各基盤機関で雇用された博士研究員が本研究所で教育を受講し、教員との共同研究を行っています。

「統計数理セミナー」は毎週水曜日に開催され、所内外の研究者が最新の研究成果を共有しています。

本研究所の社会人教育は研究所が設立された昭和19年に始まり、現在は「公開講座」として開催されています。

また、平成29年度に開始した「リーディングDAT」では、データサイエンス高度人材の育成を目的に、統計の基礎から応用に至るまでの多様な講座を展開しています。

こうした取り組みにより、複雑で不確実な社会課題に挑む人材の育成が進められています。



共同研究スタートアップ事業

統計エキスパート人材の育成

<https://stat-expert.ism.ac.jp/>

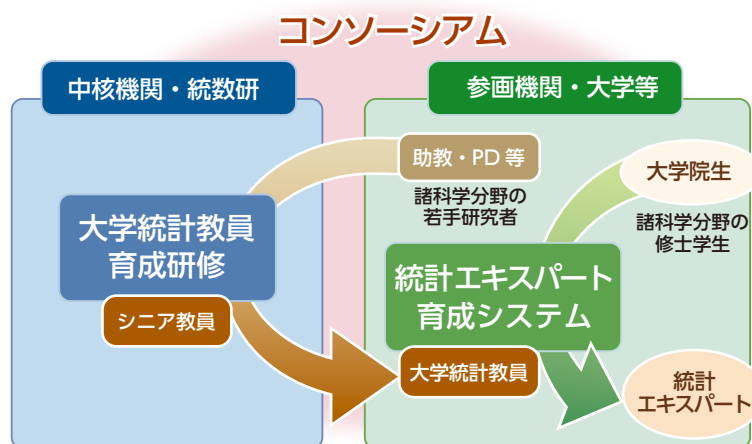


最近、データサイエンス系の学部・学科を新設する大学が急増しています。このような中で、深刻な問題となっているのが、データサイエンスの中核を成す統計学の専門教員の不足です。この課題に対応するため、統計数理研究所が中核となり、2021年に「統計エキスパート人材育成プロジェクト」(文部科学省補助事業)を開始しました。

このプロジェクトでは、統計数理研究所が、全国の大学・研究所に所属する助教等の若手研究者を「大学統計教員」に育成します。育成された大学統計教員は、大学院修士学生に対して、データ分析の基礎となる統計学を講義し、統計を活用した学術研究を指導します。これにより、全国の大学等で、統計を駆使して学術研究や産業振興に貢献することができる「統計エキスパート」を育成します。

プロジェクトの目標は、統計学分野の人材育成の好循環システムを構築することです。プロジェクト期間の5年間で、目標を大きく上回る38名の大学統計教員を育成しました。これらの教員は、全国の大学等で統計エキスパートを育成しています。

統計学教員を中心とする高度統計人材に対するニーズはさらに高まっており、2026年にはプロジェクトを発展させ新たな人材育成事業を開始することとしています。



統計エキスパート人材育成の骨格

バーチャルラボ

2024年11月、産学官および国内外の研究者らが分野・組織・国境の垣根を越え、データ駆動科学のオープンイノベーションを推進する「バーチャルラボ」共創拠点形成事業を始動しました。本事業では、統計数理研究所の研究者が戦略目標を掲げ、所内外の研究者を集めてバーチャルなラボを構築します。メタバースツール等を活用しながら、従来の競争型共同研究の域を超えた強固で密な共創体制を構築することで、個では達成困難な挑戦的先導研究を推進していきます。

本事業の第一弾として、四つのバーチャルラボを設置しました。「統計的機械学習共創ラボ」では、国内外の研究者が連

携して統計的機械学習分野の挑戦的研究を展開しています。若手研究者主導で諸科学分野との学融合を図る「諸科学統計数理ラボ」では、統計数理を介した学融合と諸科学の発展に資する最先端の統計数理の創発拠点を構築しました。三菱ケミカル株式会社との産学共創型バーチャルラボ「ISM-MCC フロンティア材料設計拠点」ならびにJSR株式会社とのバーチャルラボ「JSR スマートケミストリーラボ」では、マテリアルズインフォマティクスにおける機械学習プラットフォームの開発と新材料創製を推進しています。



メタバースツールを活用したバーチャルラボ運営

大学等に所属する研究者が、研究所の施設を利用したり、研究所において統計に関する数理及びその応用の研究を行い、学術研究の発展に資することを目的としています。

公募型共同利用

2026年4月1日現在

採択件数

2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
178件	145件	143件	122件	125件	135件	126件

2026年度採択課題抜粋

共同利用登録(14件)、一般研究1(16件)、一般研究2(38件)、重点型研究(30件)、共同研究集会(15件)、国際共同研究集会(1件)、計114件から以下に抜粋を掲載します。

重点型研究

重点テーマ1：社会科学におけるデータモデリングの新展開

研究課題名	研究代表者	所属	役職
財務ビッグデータの統計モデリングと可視化に関する研究	地道 正行	関西学院大学	教授
トピックモデルを活用したソーシャルメディア上のユーザーセグメントの捕捉	五十嵐 未来	大阪大学	准教授
金融市場と電力市場の相乗的発展を達成するリスクマネジメント技術構築	山田 雄二	筑波大学	教授

重点テーマ2：データ解析の妥当性と質を高める生存時間分析法の開発と利用

研究課題名	研究代表者	所属	役職
データの異質性を考慮した統計モデリングと生存時間分析への応用	植木 優夫	長崎大学	教授
機械学習による生存分析手法の検証	樋口 千洋	医薬基盤・健康・栄養研究所技術補助員	

重点テーマ3：データ駆動型地盤工学の基盤技術とベンチマークの創出

研究課題名	研究代表者	所属	役職
離散要素法 (DEM) 解析の自動化基盤構築と地盤工学への応用	松島 亘志	筑波大学	教授
統計的インフラ劣化モデルにおける推定手続きのサロゲート化と自動化手法の開発	水谷 大二郎	東北大学	准教授

重点テーマ4：統計数学と代数学の相互作用を俯瞰する

研究課題名	研究代表者	所属	役職
確率分布の正規化に関わる代数的諸問題の解決	清 智也	東京大学	教授
結晶構造データ科学における代数・統計科学	富安 亮子	九州大学	教授

共同研究集会

研究課題名	研究代表者	所属	役職
諸科学における統計思考	横山 雅之	核融合科学研究所	教授
データ同化ワークショップ	上野 玄太	統計数理研究所	教授
極値理論の工学への応用	西郷 達彦	山梨大学	准教授

国際共同研究集会

研究課題名	研究代表者	所属	役職
Information Geometry, Privacy and Monte Carlo	鎌谷 研吾	統計数理研究所	教授

図書・資料

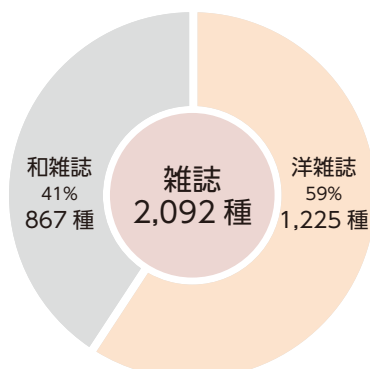
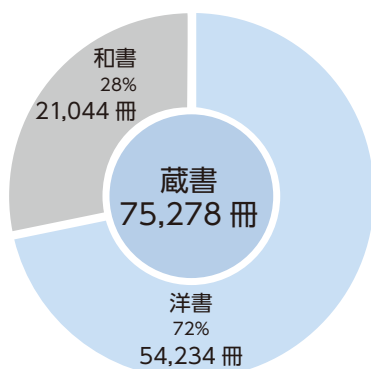
2026年4月1日現在

本研究所の広範な研究分野を反映して、統計学、数学、計算機科学、情報科学に関わる内外の主要学術誌を多数備えています。収蔵図書はこれらの分野に加えて人文・社会科学から生物、医学、理工学の広範な領域にわたっています。

また本研究所が刊行する欧文誌「Annals of the Institute of Statistical Mathematics」(Springerから発行)、和文誌「統計数理」、「日本人の国民性の研究」など調査研究のための「統計数

理研究所調査研究レポート」、「Computer Science Monographs」、共同利用における共同研究のための「共同研究レポート」、「Research Memorandum」、「統計計算技術報告」、「研究教育活動報告」および内外からの寄贈による資料も備えています。

あらゆる分野の研究者の需要に応えるため、図書・資料を整理し、OPACから検索出来るようになっています。また文献の問い合わせと複写サービスも行っています。



計算資源の提供

2026年4月1日現在

統計数理研究所では、複数の共用計算機を運用し、所内外の研究者に計算機資源を提供しています。

2024年6月に導入した「統計科学スーパーコンピュータシステム」は、大規模統計計算のための分散メモリ型並列計算機です。212の計算ノードで構成されており、総理論演算性能1.56PFLOPSです。水冷のHPE Cray XD2000を採用し、各ノードには96コアCPU (AMD EPYC 9654)が2基と768GBの主記憶が搭載されています。所内の研究者のみならず、公募型共同利用を通じて所外の研究者も利用可能です。

2023年3月に導入した「データ同化スーパーコンピュータ

システム」は、大規模なメモリをどのCPUからでも利用できる分散共有メモリ型の計算機で、並列化プログラミングの手間をかけずに大規模データの解析を進めることが可能です。HPE Superdome Flexを2ノード(総理論演算性能154.8TFLOPS)で構成され、各ノードには28コアのCPU (Intel Xeon Platinum 8280L) 32基、48TBの主記憶、実効容量880TBのSSDが搭載されています。うち1ノードは、文部科学省を中心に推進されているHPCI(革新的ハイパフォーマンス・コンピューティング・インフラ)事業の計算資源として提供しています。

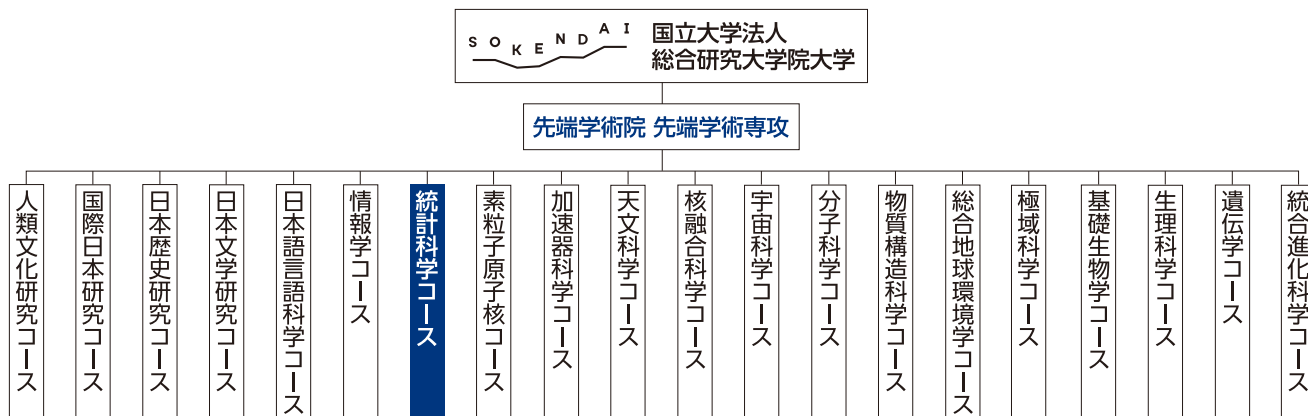


統計科学スーパーコンピュータシステム HPE Cray XD2000



データ同化スーパーコンピュータシステム HPE Superdome Flex

統計数理研究所は、昭和63年10月に開学した学部を持たない大学院だけの大学、総合研究大学院大学(神奈川県三浦郡葉山町)の基盤機関の一つとして、創設時から統計科学専攻を設置し、平成元年4月から学生を受け入れて、博士後期課程の教育研究を本研究所で行ってきました。平成18年度から、5年一貫制に移行し、修業年限を5年とする「博士課程(5年一貫制)」と、修業年限を3年とし3年次に編入学する「博士課程(3年次編入学)」で教育研究を行っています。また、令和5年4月に教育組織再編が行われ、先端学術院先端学術専攻のもと統計科学コースとして設置されています。



教育研究の概要

本コースでは、基盤機関である統計数理研究所の恵まれた研究環境を活用して、現実社会からの情報ないし知識の抽出を、データに基づいて実現するために、データ収集の設計、モデリング、推論、予測およびこれらの基礎、数理、応用に係わる教育研究を行い、複雑に相互に絡み合うさまざまな重要課題の解決に貢献する創造性豊かな研究能力を備えた人材の育成を目的としています。

研究組織	内 容
先端データサイエンス	先端的なデータ科学の理論・方法、それらの応用、特に統計的機械学習、数理最適化、諸科学への応用に関する教育研究を行います。
統計基盤数理	多様なデータの変動を確率的に表現するモデルの開発と利用、データから合理的な意思決定を行うための統計的推論や、基礎となる最適化に関する理論と応用に関する教育研究を行います。
学際統計数理	統計数理の理論と方法論、それらを人文学・社会科学、生物・医学・環境科学、理工学・情報学の分野へ応用可能にする方法など、学際的な教育研究を行います。

教育研究の特色

- 本コースは、日本で数少ない統計科学に関する博士課程であり、これまで幅広い学問分野から学生諸君を受け入れて、理論から応用までの多分野にわたる専門の教員により、統計科学全般についての教育研究が行われています。
- 本コースの基盤機関である統計数理研究所では統計科学専用スーパーコンピュータなどが設置され、統計数理研究所作成のオリジナルソフトウェアをはじめ多様なソフトウェアがそろっています。
- 統計科学と数理科学の学術誌・図書は国際的に有数の完備を誇っています。
- 統計数理研究所では共同利用研究所として研究会や国内外の客員教授・研究者のセミナーが頻繁に行われていますが、学生諸君はこれにほとんど自由に参加・交流できます。
- 他大学や研究機関の研究者たちとの共同研究、および他研究所などとの研究プロジェクトに参画し、各課題研究の一翼を担うこともできます。

修了要件および学位の種類

- 統計科学コースの修了要件は、以下のとおりです。
 - 5年一貫制博士課程：先端学術院に5年以上（休学期間を除く）在学し、先端学術院特別研究ⅠA～VBの20単位を含む42単位以上を修得すること。
 - 博士後期課程：先端学術院に3年以上（休学期間を除く）在学し、先端学術院特別研究ⅢA～VBの12単位を含む16単位以上を修得すること。
- そしてともに、指導教員から必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格すること。
- 修了者には、博士（統計科学）の学位が授与されます。あるいは、統計科学に係る学際的分野を主な内容とする博士論文については、博士（学術）の学位が授与されます。なお、優れた研究業績を上げた者の在学年限については、弾力的な取り扱いがなされます。

在学生数

2026年4月1日現在

■ 博士課程（5年一貫制）／5年一貫制博士後期：定員2名

入学年度	2021年度	2023年度	2025年度	2026年度
現員	1	1	3	2

■ 博士課程（3年次編入学）／博士後期課程：定員6名

入学年度	2019年度	2020年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
現員	1 ①	1 ①	2 ②	6 ⑤	4 ②	4 ①	2 ①

※○は有職者で内数

学位授与数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
博士（学術）	0名	0名	0名	1名	0名	0名	0名
博士（統計科学）	5名	4名	7名	9名	7名	5名	12名

求める学生像

統計科学に対して強い関心を持ち、未知の問題の解決や新領域の開拓を志す意欲のある学生。特に、既存の学問分野にこだわらず新たな学術体系の創出を目指し、不確実な現象に対してデータに基づいて推論し行動するという広義の意味での統計科学の構築に、様々な分野を背景として力強く参画したいという高い志を持った学生を求めます。

入学者選抜の基本的な考え方

- 統計科学は幅広い分野を背景とする学際的な学問であることから、他分野からの受験も歓迎します。
- 学位取得のための基礎的な能力の有無を判定します。
- 5年一貫制博士課程は、筆記試験と面接試験を行い、数理と英語の基礎知識、志望研究テーマ、研究への意欲等から総合的に判断します。
- 博士後期課程は、面接試験を行い、志望研究テーマ、修士論文や学術論文の研究内容、統計科学の基礎知識、研究者としての適性等から総合的に判断します。

研究所が開発した主なプログラム

統計数理研究所では、ソフトウェアの公開・提供も積極的に行っています。長年好評を博してきたTIMSACをはじめとする代表的なプログラムは、統計解析ソフトウェア R のパッケージとして、CRAN (The Comprehensive R Archive Network) サイトで公開しています。

プログラム名	概 要	URL
■ timsac (R package)	時系列データの解析・予測・制御のためのプログラム。	https://cran.r-project.org/web/packages/timsac/index.html 
■ catdap (R package)	カテゴリカルな目的変数に対する最適な説明変数を自動的に選択する。	https://cran.r-project.org/web/packages/catdap/index.html 
■ SAPP (R package)	地震活動などの統計的解析とモデリングのためのプログラム。	https://cran.r-project.org/web/packages/SAPP/index.html 
■ NScluster (R package)	ネイマン・スコット型空間クラスターモデルを扱うプログラム。	https://cran.r-project.org/web/packages/NScluster/index.html 
■ TSSS (R package)	北川源四郎「Rによる時系列モデリング入門」の時系列解析プログラム。	https://cran.r-project.org/web/packages/TSSS/index.html 
■ spmoran (R package)	空間加法混合モデルを高速推定する。	https://cran.r-project.org/web/packages/spmoran/index.html 
■ pimeta (R package)	変量効果によるメタアナリシスの予測区間を用いた解析を行う。	https://cran.r-project.org/web/packages/pimeta/index.html 
■ scgwr (R package)	Pre-conditioningを活用して地理的加重回帰モデルを経験ベイズ推定する。	https://cran.r-project.org/web/packages/scgwr/index.html 
■ XenonPy (Python)	物質構造の記述・学習・生成・合成のための マテリアルズインフォマティクス ALL-IN-ONE ツール。	https://github.com/yoshida-lab/XenonPy 
■ RadonPy (Python)	全原子古典分子動力学シミュレーションによる 高分子物性の全自動計算を行う。	https://github.com/RadonPy/RadonPy 
■ Seq-Stack-Reaction (Python)	分子と合成経路を同時に自動生成するアルゴリズムのライブラリ。	https://github.com/qi-zh/Seq-Stack-Reaction 
■ CSPML (Python)	機械学習アルゴリズムによる結晶構造予測のプログラム。	https://github.com/Minoru938/CSPML 
■ Sobolev transport (MATLAB)	スケーラブルにソボレフ輸送距離を計算する。	https://github.com/lttam/SobolevTransport 
■ sgdpd (R package)	一般の確率モデルに対するロバストダイバージェンスを最小化する。	https://github.com/oknakfm/sgdpd 
■ ShotgunCSP (Python)	化合物の化学式のみから化合物の結晶構造を予測する。	https://github.com/TsumiNa/ShotgunCSP 
■ SarSIML (R)	非定常季節時系列のトレンド・循環・季節性・不規則変動の時系列分解。	https://stat-expert.ism.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2024/11/SSE-DP-2024-4.pdf 

運営費交付金等 (2025年度)

区 分	人 件 費	物 件 費	合 計
決 算 額	798,852	699,115	1,497,967

単位：千円

外部資金受入状況 (2025年度)

区 分	件 数	受入金額
民間等との共同研究	23	50,273
共同研究部門	1	10,000
受託研究・受託事業等	35	507,223
受託研究員	0	0
学術指導	1	780
寄附金	2	1,500
合計	62	569,776

単位：千円

科学研究費補助金 (2025年度)

研究種目	件 数	交付金額
学術領域変革研究 (A)	3	43,160
学術領域変革 (B)	0	0
基盤研究 (S)	0	0
基盤研究 (A)	3	22,750
基盤研究 (B)	12	47,060
基盤研究 (C)	23	30,290
挑戦的研究 (萌芽)	2	3,250
挑戦的研究 (開拓)	0	0
若手研究	9	10,530
若手研究 (独立基盤形成支援)	0	0
研究活動スタート支援	5	5,330
特別研究員奨励費	0	0
海外連携研究	1	4,550
合計	58	166,920

単位：千円

敷地・建物

2026年4月1日現在

建物名称	構造階数	延べ面積
総合研究棟	R6-1	15,260m ² (総合研究棟 48,105 m ² のうち 統計数理研究所分の面積)
Akaike Guest House	R1	949m ²
建物面積 (延べ面積)		16,209m ²
敷地面積		62,450m ²



建物外観

Akaike Guest House

Akaike Guest Houseは、共同利用・共同研究に従事される研究者等のための宿泊施設です。当ゲストハウスは、敷地内に建てられたもので、平成22年6月にオープンしました。部屋数は、シングルルーム18、ツインルーム4、バリアフリールーム1の計23室です。Akaike Guest Houseの名称は、元統計数理研究所長の故 赤池弘次氏にちなんでつけられたものです。

https://www.ism.ac.jp/guest_house/



Akaike Guest House 全景

所員数 (現員)

2026年4月1日現在

区 分	所長	教授	准教授	助教	事務職員	技術職員	合 計
所 長	1						1
先端データサイエンス研究系 統計的機械学習研究センター		3	3	1			7
先端データサイエンス研究系 マテリアルズインフォマティクス研究推進センター		2	2				4
統計基盤数理研究系		8	9	2			19
学際統計数理研究系		10	6	1			17
統計科学技術センター						10	10
運営企画本部					1		1
管 理 部					15		15
計	1	23	20	4	16	10	74

※所長も教授に含む (学際統計数理研究系 教授 1)
※DS施設本務者を含む (学際統計数理研究系 准教授 1)
※技術職員数は再雇用職員 2 名を含む

所員

2026年4月1日現在

所 長	山下 智志	副所長 (研究企画、評価、共同研究) (兼)	川崎 能典	副所長 (財務、設備、知財、NOE) (兼)	吉田 亮
		副所長 (人事、広報) (兼)	上野 玄太	副所長 (コンプライアンス、ガバナンス&セキュリティ) (兼)	南 和宏
		所長補佐 (兼)	伊藤 聡	所長補佐 (兼)	木野 日織

先端データサイエンス研究系 統計的機械学習研究センター					
センター長 (兼) 福水 健次					
教 授	池田 思朗	教 授	日野 英逸	教 授	福水 健次
准教授	相馬 輔	准教授	包 含	准教授	李 静沛
助 教	Le Thanh Tam	特任助教	Alexander Lim	特任助教	Fang Tongtong
特任助教	藤田 真司	特任研究員	三戸 圭史	特任研究員	清水 瑛貴
客員教授	Gretton Arthur University College London	客員教授	Sejdinovic Dino Adelaide University		
客員教授	室田 一雄	客員准教授	今泉 允聡 東京大学		
客員准教授	竹内 努 名古屋大学	客員准教授	山田 誠 沖縄科学技術大学院大学		

先端データサイエンス研究系 マテリアルズインフォマティクス研究推進センター									
センター長（兼） 吉田 亮									
教 授	木野 日織			教 授	吉田 亮			准教授	Wu Stephen
准教授	林 慶浩			特任准教授	大西 正人			特任准教授	Liu Chang
特任助教	篠田 恵子			特任研究員	木村 薫			特任研究員	草場 穫
特任研究員	高橋 愛子			特任研究員	濱川 登夢			特任研究員	藤田 絵梨奈
客員教授	塩見 淳一郎 東京大学			客員教授	森川 淳子 東京科学大学				
客員准教授	秋山 世治 理化学研究所								

所員

統計基盤数理研究系

研究主幹（兼） 藤澤 洋徳

統計モデル研究グループ

教 授	鎌谷 研吾	教 授	庄 建倉	教 授	間野 修平
教 授	持橋 大地	准教授	加藤 昇吾	准教授	志村 隆彰
准教授	船渡川 伊久子	准教授	村上 大輔	助 教	吉田 淳一郎
客員教授	南 美穂子 慶應義塾大学				

統計的意思決定研究グループ

教 授	赤穂 昭太郎	教 授	伊藤 聡	教 授	二宮 嘉行
教 授	藤澤 洋徳	准教授	奥野 彰文	准教授	田中 未来
准教授	Figueira Lourenco Bruno	准教授	逸見 昌之	准教授	矢野 恵佑
助 教	岡崎 彰良				
客員教授	品野 勇治 Zuse Institute Berlin				

学際統計数理研究系

研究主幹（兼） 川崎 能典

人文学・社会科学研究グループ

教 授	川崎 能典	教 授	朴 堯星	教 授	山下 智志
准教授（兼）	前田 忠彦	助 教	清水 信夫	特任研究員	濱田 ひろか
特任研究員（兼）	石橋 拳				
客員教授	今田 高俊	東京工業大学	客員教授	尾碕 幸謙	筑波大学
客員教授	吉川 徹	関西大学	客員教授	佐藤 嘉倫	京都先端科学大学
客員教授	松本 渉	関西大学	客員教授	真鍋 一史	青山学院大学
客員准教授	稲垣 佑典	成城大学	客員准教授	加藤 直子	桜美林大学
客員准教授	齋藤 恭之	(株)朝日新聞社	客員准教授	佐藤 寧	(株)日経リサーチ
客員准教授	藤田 泰昌	埼玉大学			

生物・医学・環境科学研究グループ

教 授	金藤 浩司	教 授	野間 久史	教 授	松井 茂之
教 授	吉本 敦	准教授	足立 淳	准教授	島谷 健一郎
客員准教授	小島 将裕 中央大学		客員准教授	福田 治久 九州大学	

理工学・情報学研究グループ

教 授	上野 玄太	教 授	中野 慎也	教 授	南 和宏
准教授	小山 慎介	准教授	三分一 史和	准教授	村上 隆夫

所員

リスク解析戦略研究センター

センター長（兼） 加藤 昇吾

副センター長（兼） 村上 大輔

教 授（兼） 上野 玄太

教 授（兼） 川崎 能典

教 授（兼） 藤澤 洋徳

教 授（兼） 山下 智志

特任教授（兼） 清水 邦夫

准教授（兼） 加藤 昇吾

准教授（兼） 志村 隆彰

准教授（兼） 逸見 昌之

准教授（兼） 矢野 恵佑

特任助教（兼） Xue Yujie

特任研究員（兼） Tran Minh Chanh

客員教授 安藤 雅和 千葉工業大学

客員教授 伊藤 誠 筑波大学

客員教授 岩佐 哲也 総務省

客員教授 大竹 雄 東北大学

客員教授 柿沢 佳秀 北海道大学

客員教授 亀屋 隆志 横浜国立大学

客員教授 川野 秀一 九州大学

客員教授 久保田 貴文 多摩大学

客員教授 小松 聖 総務省

客員教授 笹島 誉行 （独）統計センター

客員教授 島津 秀康 北里大学

客員教授 白川 清美 立正大学

客員教授 鈴木 和幸 電気通信大学

客員教授 高橋 倫也 神戸大学

客員教授 塚原 英敦 成城大学

客員教授 富田 哲治 県立広島大学

客員教授 楠城 一嘉 静岡県立大学

客員教授 原 尚幸 京都大学

客員教授 深澤 正彰 大阪大学

客員教授 本田 敏雄 一橋大学

客員教授 宮本 定明 筑波大学

客員教授 柳原 宏和 大阪公立大学

客員教授 吉田 靖 東京経済大学

客員教授 吉羽 要直 東京都立大学

客員准教授 井本 智明 静岡県立大学

客員准教授 上原 悠模 関西大学

客員准教授 荻原 哲平 東京大学

客員准教授 加納 将行 京都大学

客員准教授 小池 祐太 東京大学

客員准教授 坂田 綾香 お茶の水女子大学

客員准教授 園田 桂子 内閣府

客員准教授 高橋 淳一 （一社）CRD 協会

客員准教授 張 俊超 新潟大学

客員准教授 中澤 暦 富山県立大学

教 授（兼） 金藤 浩司

教 授（兼） 庄 建倉

教 授（兼） 南 和宏

教 授（兼） 吉本 敦

准教授（兼） Wu Stephen

准教授（兼） 小山 慎介

准教授（兼） 田中 未来

准教授（兼） 村上 大輔

助 教（兼） 岡崎 彰良

特任助教（兼） 柳下 翔太郎

特任研究員（兼） Muhammad Bisri Musthafa

客員教授 伊藤 伸介 中央大学

客員教授 井上 卓 （株）情報通信総合研究所

客員教授 植木 優夫 長崎大学

客員教授 岡田 幸彦 筑波大学

客員教授 加藤 愛太郎 東京大学

客員教授 加茂 憲一 札幌医科大学

客員教授 木村 敦 （独）統計センター

客員教授 木島 真志 琉球大学

客員教授 佐久間 紀佳 大阪大学

客員教授 椎名 洋 大妻女子大学

客員教授 清水 泰隆 早稲田大学

客員教授 菅澤 翔之助 慶應義塾大学

客員教授 高橋 武則

客員教授 高部 勲 立正大学

客員教授 津田 博史 同志社大学

客員教授 永島 勝利 総務省

客員教授 野村 俊一 早稲田大学

客員教授 Peter Surovy Czech University of Life Science Prague Faculty of Forestry and Wood Sciences

客員教授 藤井 聡 京都大学

客員教授 松添 博 名古屋工業大学

客員教授 元山 斉 青山学院大学

客員教授 吉田 朋広 東京大学

客員教授 吉野 貴晶 マネックス証券（株）

客員准教授 石辺 岳男 気象庁

客員准教授 岩田 貴樹 県立広島大学

客員准教授 Enescu Bogdan Dumitru 京都大学

客員准教授 奥野 貴之 成蹊大学

客員准教授 小池 孝明 一橋大学

客員准教授 西郷 達彦 山梨大学

客員准教授 佐藤 整尚 東京大学

客員准教授 高田 正彬 （株）東芝

客員准教授 田上 悠太 東京海洋大学

客員准教授 鶴岡 弘 東京大学

客員准教授 長幡 英明 （株）マネーフォワード

客員准教授	深谷 肇一	国立環境研究所	客員准教授	福井 敬祐	関西大学
客員准教授	三井 雄太	静岡大学	客員准教授	山田 真澄	京都大学
客員准教授	吉田 崇紘	東京大学	客員准教授	力丸 佑紀	北里大学
客員准教授	渡邊 隼史	成城大学	客員講師	麻生 尚文	東京理科大学
客員講師	高畠 哲也	大阪大学	客員講師	田村 菜穂美	北海道大学
客員講師	原田 和治	東京医科大学	客員助教	本間 翔太	海上・港湾・航空技術研究所
客員助教	山口 光	東京理科大学			

データ同化研究センター

センター長（兼）上野 玄太			副センター長（兼）中野 慎也		
教 授（兼）上野 玄太			教 授（兼）中野 慎也		特任教授 藤田 茂
准教授（兼）村上 大輔			特任研究員 Lin Zhiheng		
客員教授 神山 雅子		（株）ブリヂストン	客員教授 北野 利一		名古屋工業大学
客員教授 佐藤 忠彦		筑波大学	客員教授 中村 和幸		明治大学
客員教授 野村 俊一		早稲田大学	客員教授 樋口 知之		中央大学
客員准教授 加藤 博司		宇宙航空研究開発機構	客員准教授 斎藤 正也		長崎県立大学
客員准教授 長尾 大道		東京大学	客員准教授 藤井 陽介		気象研究所
客員准教授 山本 誉士		麻布大学	客員講師 大久保 祐作		岡山大学

医療健康データ科学研究センター

センター長（兼） 松井 茂之			副センター長（兼） 三分一 史和			
教 授（兼）松井 茂之			教 授（兼） 山下 智志			特任教授 江口 真透
特任教授 岡 檀			特任教授（兼） 佐藤 俊哉			准教授（兼） 逸見 昌之
准教授（兼）三分一 史和			特任研究員 田上 紀代美			特任研究員 中園 孝輔
客員教授 赤沢 学	明治薬科大学		客員教授 伊藤 陽一	北海道大学病院		
客員教授 江村 剛志	広島大学		客員教授 菊地 千一郎	群馬大学		
客員教授 清野 健	大阪大学		客員教授 高橋 邦彦	東京科学大学		
客員教授 田栗 正隆	東京医科大学		客員教授 立森 久照	慶應義塾大学		
客員教授 手良向 聡	京都府立医科大学		客員教授 服部 聡	大阪大学		
客員教授 渡辺 美智子	立正大学		客員准教授 木村 良一	山口東京理科大学		
客員准教授 三村 喬生	国立精神・神経医療研究センター					

統計思考院

院 長（兼） 日野 英逸					
副院長（兼） 矢野 恵佑			副院長（兼） 栗木 哲		
教 授（兼）赤穂 昭太郎			教 授（兼）池田 思朗		
教 授（兼）日野 英逸			教 授（兼）藤澤 洋徳		
特任教授 栗木 哲			准教授（兼）奥野 彰文		
准教授（兼）逸見 昌之			准教授（兼）三分一 史和		
助 教（兼）岡崎 彰良			助 教（兼）清水 信夫		
特任助教 島野 薫			特任助教 白崎 正人		
特任研究員 Huang Wei			特任研究員 Bai Mingyuan		
客員教授 小森 理	成蹊大学		客員教授 横山 雅之	核融合科学研究所	
客員准教授 高橋 啓	大阪公立大学				

所員

大学統計教員育成センター

センター長（兼） 千野 雅人		
教 授（兼） 赤穂 昭太郎	教 授（兼） 上野 玄太	教 授（兼） 川崎 能典
特任教授 岩崎 学	特任教授 越智 義道	特任教授 折笠 秀樹
特任教授 国友 直人	特任教授 佐藤 俊哉	特任教授 澤村 保則
特任教授 清水 邦夫	特任教授 神保 雅一	特任教授 千野 雅人
特任教授 三輪 哲久	特任教授（兼） 栗木 哲	特任教授（兼） 水田 正弘
特任准教授 高柳 昌芳	助 教（兼） 橋本 大志	
客員准教授 石橋 健 関西大学	客員准教授 大野 航太 中央大学	
客員准教授 加葉田 雄太朗 鹿児島大学	客員准教授 江 啓発 名古屋市立大学	
客員准教授 長井 万恵 群馬大学	客員准教授 西 颯人 一橋大学	
客員准教授 松島 裕康 滋賀大学	客員准教授 湯浅 良太 千葉大学	
客員講師 岡本 雅子 京都大学	客員講師 小野島 隆之 滋賀大学	
客員講師 佐藤 宏征 東京科学大学	客員講師 眞田 英毅 武庫川女子大学	
客員講師 田島 友祐 大妻女子大学	客員講師 多森 翔馬 東京理科大学	
客員講師 趙 宇 東京理科大学	客員講師 張 天逸 早稲田大学	
客員講師 土田 潤 京都女子大学	客員講師 吉田 一生 北海道大学	
客員助教 姜 佳明 長崎大学	客員助教 清家 大嗣 東京大学	
客員助教 中西 正 広島修道大学	客員助教 深作 亮也 九州大学	

統計科学技術センター

センター長（兼） 中野 慎也		
副センター長（兼） 三分一 史和 副センター長（兼） 村上 隆夫		
総括室長 中村 和博	計算基盤室長 早坂 充	ネットワーク管理室長（兼） 中村 和博
情報資源室長 宮園 法明	メディア開発室長 池田 広樹	

図 書 室

室 長（兼） 中野 慎也

運営企画本部

本部長（兼） 山下 智志		
企画室長（兼） 川崎 能典	評価室長（兼） 宮里 義彦	評価室副室長（兼） 川崎 能典
広報室長（兼） 宮里 義彦	広報室副室長（兼） 上野 玄太	産学連携・知的財産室長（兼） 吉田 亮
NOE 推進室長（兼） 吉田 亮	ダイバーシティ・インクルージョン推進室長（兼） 上野 玄太	国際連携推進室長（兼） 鎌谷 研吾
基幹研究系支援室長（兼） 伊藤 聡	基幹研究系支援室副室長（兼） 高木 博史	

URA ステーション

主任 URA 岡本 基	主任 URA 本多 啓介	特命 URA（兼） 北村 浩三
-------------	--------------	-----------------

管 理 部

管理部長 粒来 英雄		
■ 総務企画課	課 長 佐藤 泰司	副課長 高木 博史
	総務企画係長 茂木 諒平	人事・給与係長 笠川 勇将
■ 財務課		研究推進係長 昨間 勲
	課 長 井後 嘉仁	
	専門職員（兼） 大中臣 哲也	専門職員（兼） 前川 晶子
	予算・決算係長（兼） 新井 弘章	経理・契約係長 河治 一郎

運営会議委員

2026年5月1日現在

氏名	所属・役職
青嶋 誠	筑波大学 教授
小木 しのぶ	株式会社 NTT データ数理システム 取締役
梶原 健司	九州大学 教授／マス・フォア・インダストリ研究所長
杉山 将	理化学研究所／東京大学 革新知能統合研究センター長／教授
武田 朗子	東京大学 教授
渡部 敏明	一橋大学 教授／ソーシャル・データサイエンス学部長・研究科長
増田 弘毅	東京大学 教授
井元 清哉	東京大学 ヒトゲノム解析センター長／教授
渡部 泰明	国文学研究資料館 館長
川崎 能典	統計数理研究所 教授／副所長
吉田 亮	統計数理研究所 教授／副所長
上野 玄太	統計数理研究所 教授／副所長
南 和宏	統計数理研究所 教授／副所長
伊藤 聡	統計数理研究所 教授／所長補佐
福水 健次	統計数理研究所 教授／統計的機械学習研究センター長
藤澤 洋徳	統計数理研究所 教授／統計基盤数理研究系研究主幹
日野 英逸	統計数理研究所 教授／統計思考院長
中野 慎也	統計数理研究所 教授／統計科学技術センター長

共同利用委員会委員

2026年4月1日現在

氏名	所属・役職
川畑 拓矢	気象庁気象研究所 室長
久保田 貴文	多摩大学 教授
小池 孝明	一橋大学 准教授
佐藤 彰洋	横浜市立大学 教授
吉羽 要直	東京都立大学 教授
鎌谷 研吾	統計数理研究所 教授
中野 慎也	統計数理研究所 教授
相馬 輔	統計数理研究所 准教授
田中 未来	統計数理研究所 准教授

NOE形成事業顧問

2026年7月1日現在

氏名	所属・役職
伊藤 聡	計算科学振興財団 チーフコーディネータ
蒲生 昌志	産業技術総合研究所 安全科学研究部門 研究部門長
佐藤 嘉倫	京都先端科学大学 人文学部 学部長・教授
田中 利幸	京都大学大学院情報学研究科 研究科長・教授
露木 義	千葉大学環境リモートセンシング研究センター 派遣職員／気象庁気象研究所気象観測研究部 リサーチアソシエイト
宮柱 明日香	日本製薬工業協会 会長

統計思考院運営委員会委員

2026年4月1日現在

氏名	所属・役職
川崎 能典	統計数理研究所 副所長
日野 英逸	統計数理研究所 統計思考院長
矢野 恵佑	統計数理研究所 統計思考院副院長
栗木 哲	統計数理研究所 統計思考院副院長
奥野 彰文	統計数理研究所 准教授
千野 雅人	統計数理研究所 特任教授

研究倫理審査委員会委員

2026年4月20日現在

氏名	所属・役職
金井 雅之	専修大学人間科学部 教授
佐藤 恵子	京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 健康情報学分野 特任准教授
中山 ひとみ	霞ヶ関総合法律事務所 弁護士
操木 豊	社会福祉法人国立保育会 理事・理事長室長
南 和宏	統計数理研究所 教授／副所長
野間 久史	統計数理研究所 教授
朴 堯星	統計数理研究所 教授
前田 忠彦	統計数理研究所 准教授

名誉所員・名誉教授

2026年4月1日現在

名 誉 所 員	名 誉 教 授							
西平 重喜	清水 良一	大隅 昇	村上 征勝	田邊 國士				
	松縄 規	長谷川 政美	柳本 武美	伊藤 栄明				
	馬場 康維	平野 勝臣	種村 正美	石黒 真木夫				
	尾形 良彦	椿 広計	北川 源四郎	柏木 宣久				
	中村 隆	田村 義保	樋口 知之	中野 純司				
	江口 真透	宮里 義彦	伊庭 幸人	栗木 哲				

1944年	6月	昭和18年12月の学術研究会議の建議に基づき「確率に関する数理およびその応用の研究を掌り並びにその研究の連絡、統一および促進を図る」ことを目的として、文部省直轄の研究所として創設される。
1947年	4月	附属統計技術員養成所を開設。
	5月	第1研究部(基礎理論)、第2研究部(自然科学に関する統計理論)、第3研究部(社会科学に関する統計理論)に分化。
1949年	6月	文部省設置法の制定により、所轄機関となる。
1955年	9月	第1研究部(基礎理論)、第2研究部(自然・社会科学理論)、第3研究部(オペレーションズ・リサーチ・統計解析理論)に改組されるとともに、9研究室および研究指導普及室の編成からなる研究室制度が採用される。
1969年	10月	港区南麻布に新庁舎を建設。
1971年	4月	第4研究部(情報科学理論)を設置。
1973年	4月	第5研究部(予測・制御理論)を設置。
1975年	1月	第6研究部(行動に関する統計理論)を設置。
1979年	11月	情報研究棟を建設。
1985年	4月	国立学校設置法施行令の改正により、国立大学共同利用機関に改組・転換される。それとともに6研究部が4研究系(統計基礎、調査実験解析、予測制御、領域統計)へと組織替えが行われ、統計データ解析センターおよび統計教育・情報センターが設置され、附属統計技術員養成所は廃止される。
1988年	10月	総合研究大学院大学数物科学研究科統計科学専攻を設置。
1989年	6月	国立学校設置法の改正により、大学共同利用機関となる。
1997年	4月	附属施設である統計データ解析センターが統計計算開発センターに、統計教育・情報センターが統計科学情報センターに転換された。
2003年	9月	附属施設に予測発見戦略研究センターを設置。
2004年	4月	国立大学法人法により大学共同利用機関法人情報・システム研究機構統計数理研究所となる。それに伴い、企画調整主幹制を廃止し、副所長制を設置。また、国立大学法人総合研究大学院大学数物科学研究科統計科学専攻が再編され、複合科学研究科統計科学専攻を設置。
2005年	4月	研究組織を3研究系(モデリング研究系、データ科学研究系、数理・推論研究系)に改組し、附属施設である統計計算開発センターおよび統計科学情報センター並びに技術課を統計科学技術センターに統合。附属施設を研究施設に改め、リスク解析戦略研究センターを設置。
2008年	4月	研究施設に新機軸創発センターを設置。
2009年	10月	港区南麻布から立川市緑町へ移転。
2010年	6月	Akaike Guest House(宿泊施設)の運用開始。
2011年	1月	研究施設にデータ同化研究開発センターおよび調査科学研究センターを設置。
2012年	1月	研究施設に統計的機械学習研究センター、サービス科学研究センター、統計思考院を設置。
2017年	1月	調査科学研究センターおよびサービス科学研究センターを廃止。
	7月	ものづくりデータ科学研究センターを設置。
2018年	4月	研究施設に医療健康データ科学研究センターを設置。
2019年	3月	データ同化研究開発センターを廃止。
2022年	1月	研究施設に大学統計教員育成センターを設置。
2023年	4月	国立大学法人総合研究大学院大学複合科学研究科統計科学専攻を再編し、先端学術院先端学術専攻統計科学コースを設置。
2024年	3月	研究系を基幹研究系(先端データサイエンス研究系、統計基盤数理研究系、学際統計数理研究系)に改組し、先端データサイエンス研究系に高等研究センター(統計的機械学習研究センター、マテリアルズインフォマティクス研究推進センター)を設置。研究施設の統計的機械学習研究センター、ものづくりデータ科学研究センターを廃止。所長補佐を設置。
	4月	運営企画本部に基幹研究系支援室を設置。本部事務局立川共通事務部を廃止し、管理部を設置。
2025年	4月	研究施設にデータ同化研究センターを設置。



統計数理研究所へのアクセス

- ◎立川バス
「立川学術プラザ」下車 徒歩0分（正門前に停車）
「裁判所前」または「立川市役所」下車 徒歩約5分
- ◎多摩モノレール
「高松駅」下車 徒歩約10分
- ◎JR中央線
「立川駅」北口より徒歩約25分

〒190-8562 東京都立川市緑町10-3
TEL : 050-5533-8500（代表）
FAX : 042-527-9302（代表）

 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構
統計数理研究所
The Institute of Statistical Mathematics
<https://www.ism.ac.jp/>

